

平成29年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	「附属ブランドの確立～発展的な学習等によるスーパー中学生の育成～」-『学び伸ばし・学び直しセミナー』事業の継続と一層の充実～附属生一人一人の個性や特色を伸ばす取組の充実～
事業実施代表者名	附属旭川中学校長 安藤秀俊
実施附属学校名	附属旭川中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>【目的】 課外となっている放課後を、学習内容の確実な定着に加えて、生徒の興味・関心や特性を一層伸ばし・高める時間として活用する。</p> <p>【取組内容】</p> <p>1 学習内容の確実な定着を図る支援体制と教材の整備 ○教科の学習の補習及び発展的な内容への挑戦 原則として、毎週、活動予定のない、月・水・金曜日の放課後（～17:30）の時間を活用して、生徒の発展的な学習及び補充的な学習を支援する「セミナー」を実施した。</p> <p>2 生徒の興味・関心や特性を伸ばす取組（理数教育の重視）のための支援体制と教材の整備</p> <p>①各種検定試験（漢検、数検、理検、英検など）への挑戦 各種検定試験（実用英語技能検定：英検、日本漢字能力検定：漢検、実用理科技能検定：理検、算数・数学思考力検定：数検）の受験を実施した。</p> <p>②「科学の甲子園ジュニア大会」北海道地区突破に向けた取組</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>1 について</p> <p>〈セミナー満足度〉 セミナーに参加したほとんどの生徒及びその保護者が、次年度以降も放課後の時間を活用した「セミナー」を続けて欲しい。次年度も参加したいとしている。</p> <p>〈データから〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度全国学力・学習状況調査の結果 全国平均との全教科で10ポイント以上上回っている。 (国A：+12.2, 国B：+16.3 数A：+19.8, 数B：+20.3)

	<p>2について</p> <p>①各種検定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検 H27：92名→H28：128名→H29：103名 (うち、準2級・2級合格者 H27：9名→H28：25名→H29：21名 ※H29第3回の2次受検者を除く) ・理科検定 H27：0名→H28：6名→H29：17名 ・思考力検定 H27：73名→H28：60名→H29：66名 ・漢字検定 H27：64名→H28：81名→H29：97名 <p>②「科学の甲子園ジュニア大会」</p> <p>本年度の重点とした「科学の甲子園ジュニア大会」については、北海道地区（数学部門）第1位となり、全国大会に出場、実技部門第1位、総合第3位の成績をおさめた。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>1 生徒自身の「自らを高めようとする」意識を高めること</p> <p>本事業のスタート当初、生徒は「補習に参加する」というネガティブなイメージをもっていたが、本年度は発展的な学習サポートの側面をより重視して実施したことにより、生徒自身が、「セミナー」の時間で、一層、自分を高めたいという主体性と積極性を発揮している姿が多く見られた。</p> <p>相乗効果として、補充的な学習を行っている生徒も、高い目標をもって努力する生徒を目の当たりにすることにより、「自分もそうになりたい」「そのために必要なこと・すべきことをする。」と自覚し、主体的に取り組むようになってきており、発展的な学習サポートを重視して、取組を進めることが重要であると考えている。</p> <p>2 今後、一層、育むことが求められる資質や能力に関すること</p> <p>健やかな心身の育成に係る内容については、総合的な学習の時間との棲み分けを考える必要があり、新年度に向けて構想を練っているところである。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>○「科学の甲子園ジュニア大会」関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道新聞 2017.11/30 ・ " 2017.12/04 ・Webページ掲載 2017.08/21 ・ " 2017.09/12 ・ " 2017.12/08

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。